

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価と最近の動き

### I. 令和2年度中間評価について

スーパーグローバル大学創成支援事業（以下、「SGU」）の中間評価は公募要領において、支援開始から4年目（平成29年度）と7年目（平成32年度）に実施することとなっており、令和2年度（平成32年度）は、SGU採択校にとって2回目の中間評価を実施。

### II. 最近の動き

前回（平成29年度）中間評価以降の動きは以下のとおりであり、今回の中間評価では、これらを踏まえて実施することが必要。

#### (1) 構想の見直し <平成30年3月～平成31年3月>

- SGUでは公募要領において、事業期間の10年間は一時代であることから、当初の構想全体の発展性を損なわない形で、現実的な構想とするため、事業開始5年目の平成30年に構想の見直しの機会を設定。
- このため、SGU37大学のうち、34校から構想調書の補正の申請があり、中間評価（平成29年度）を担当した委員を中心とする有識者が構想調書の補正について事前に確認を行った後、プログラム委員会において、申請のあった項目ごとに審議し、構想調書の補正の可否を決定。
- あわせて、厳しい財政事情を背景にSGUの予算も逡減しており、限られた予算を効率的に活用する観点から、41項目あった「共通観点2」の成果指標について、今後も採択大学が共通して取り組む必須評価項目（19項目）と各大学が見直し後の構想を踏まえて設定する選択評価項目（22項目）に分別。

#### (2) 平成30年度秋のレビュー <平成30年11月>

- 平成30年度行政事業レビュー（年次公開検証）の対象事業としてSGUが選定され、公開の場（ネット中継）で外部有識者が事業の内容及び効果について点検。
- 指摘事項と今後の対応は次紙のとおり、

# 平成30年度秋のレビューにおける指摘事項と対応について

## 秋のレビューでの指摘事項

本事業達成時のスーパーグローバル大学（SGU）の社会における機能が明確とは言えない。**文部科学省は、目指すSGUの具体像を示すべきである。**さらに、そこに至るロジックモデルをバックキャストिंगを通じて示し、SGUが実現できることを明確にする。

**各SGUはその属性や比較優位性を踏まえたロジックモデルを構築するとともに、定性的または定量的なアウトカム目標を公開し、それを達成していくことを示さなければならない。**

一方、目標に至るための計画及びアウトプットなどのプロセスの評価による支援の**急激な変動は、目標達成に支障をきたし、本事業目的には逆効果の恐れがあるため、評価の対象は基本的にアウトカムに限定されるべきである。**

本事業の目的が、本来各大学の自主努力によってなされるべきことに鑑み、事業としての予算規模が段階的に縮減していくことも前提に、**各SGUには自走化への計画を開示し、それを具体的に進めながら、その進捗を公表していくことが求められる。**

## 今後の対応

SGUの具体像を含むロジックモデルについては、現時点の修正を行い、SGUホームページにて公表。  
(平成30年12月)

各SGUのロジックモデルを参照し、事業全体を今後更新。

各採択大学において、**アウトカム目標を含むロジックモデルを作成し、SGUホームページにて公表した。**  
(2019年4月18日)

**次回（2020年度）の中間評価において、アウトカムを中心に評価を行う予定。**

※中間評価の実施方法をプログラム委員会で定める。

- 各採択大学において、財政支援終了後を見据えた**自走化への計画**を作成し、各SGUホームページにて公表。
- **次回（2020年度）の中間評価において、自走化の計画に対する進捗についても評価項目とする。**

※中間評価の実施方法をプログラム委員会で定める。

秋の年次公開検証等の指摘事項に対するフォローアップ

担当府省名	文部科学省		
テーマ等	スーパーグローバル大学		
指摘事項	<p>・本事業達成時のスーパーグローバル大学（SGU）の社会における機能が明確とは言えない。文部科学省は、目指すSGUの具体像を示すべきである。さらに、そこに至るロジックモデルをバックキャストイングを通じて示し、SGUが実現できることを明確にする。</p> <p>・各SGUはその属性や比較優位性を踏まえたロジックモデルを構築するとともに、定性的または定量的なアウトカム目標を公開し、それを達成していくことを示さなければならぬ。一方、目標に至るための計画及びアウトプットなどのプロセスの評価による支援の急激な変動は、目標達成に支障をきたし、本事業目的には逆効果の恐れがあるため、評価の対象は基本的にアウトカムに限定されるべきである。</p> <p>・本事業の目的が、本来各大学の自主努力によってなされるべきことに鑑み、事業としての予算規模が段階的に縮減していくことも前提に、各SGUには自走化への計画を開示し、それを具体的に進めながら、その進捗を公表していくことが求められる。</p>		
個別項目	対応方針・スケジュール	行政改革推進会議 (令和元年11月5日) 時点における進捗状況	備考
<p>・本事業達成時のスーパーグローバル大学（SGU）の社会における機能が明確とは言えない。文部科学省は、目指すSGUの具体像を示すべきである。さらに、そこに至るロジックモデルをバックキャストイングを通じて示し、SGUが実現できることを明確にする。</p> <p>・各SGUはその属性や比較優位性を踏まえたロジックモデルを構築するとともに、定性的または定量的なアウトカム目標を公開し、それを達成していくことを示さなければならぬ。</p>	<p>・秋の年次公開検証時に作成したSGUの具体像を含むロジックモデルを修正し、SGUホームページにて公表する。 (スケジュール)</p> <p>・SGUの具体像を含むロジックモデルについては、秋の年次公開検証時の指摘を踏まえ、現時点の修正を行い、平成30年12月28日にSGUホームページにて公表した。</p> <p>・SGUの具体像を含むロジックモデルは以下において作成する各採択大学のロジックモデルを参照し、今後、SGUの具体像を含め、見直し・改善を図っていく。</p> <p>・各採択大学において、アウトカム目標を含むロジックモデルを作成し、SGUホームページにて公表する。 (スケジュール)</p> <p>・2019年1月中旬に作成依頼を行い、年度末までに公表する。</p>	<p>・今後、以下に示す各採択大学のロジックモデルを参照し、既に作成したSGUのロジックモデルについて、見直し・改善を図っていく。 (令和2年度概算要求での改善状況)</p> <p>・ロジックモデルで示した中長期アウトカムの実現に必要な経費を要求。</p> <p>・各採択大学において、アウトカム目標を含むロジックモデルを作成し、2019年3月29日までに公表した。その後、SGUホームページ（日本学術振興会）にて、各採択大学のロジックモデルをまとめたページに掲載した。（2019年4月18日）</p> <p>(令和2年度概算要求での改善状況)</p> <p>・ロジックモデルで示した中長期アウトカムの実現に必要な経費を要求。</p>	<p><a href="https://www.jspss.go.jp/j-&lt;br/&gt;sgu/logjcmo&lt;br/&gt;del.html">https://www.jspss.go.jp/j- sgu/logjcmo del.html</a></p> <p><a href="https://www.jspss.go.jp/j-&lt;br/&gt;sgu/h26_kek&lt;br/&gt;ka_saitaku.&lt;br/&gt;html">https://www.jspss.go.jp/j- sgu/h26_kek ka_saitaku. html</a></p>

<p>一方、目標に至るための計画及びアウトプットなどのプロセスの評価による支援の急激な変動は、目標達成に支障をきたし、本事業目的には逆効果の恐れがあるため、評価の対象は基本的にアウトカムに限定されるべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 次回（2020年度）の中間評価において、アウトカムを中心に評価を行うよう中間評価の実施方法をプログラム委員会において定める。</li> <li>▪ 2019年度末までに中間評価の実施方法を本事業のプログラム委員会において定める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 左記のスケジュールを前提に中間評価実施方法を検討中。</li> <li>▪ (令和2年度概算要求での改善状況)</li> <li>▪ ロジックモデルで示した中長期アウトカムの実現に必要な経費を要求。</li> <li>▪ なお、中間評価の実施方法については、令和2年3月に開催予定のプログラム委員会において定める予定。</li> </ul>	
<p>▪ 本事業の目的が、本来各大学の自主努力によってなされるべきことに鑑み、事業としての予算規模が段階的に縮減していくことも前提に、各SGUには自走化への計画を開示し、それを具体的に進めながら、その進捗を公表していくことが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 各採択大学において、財政支援終了後を見据えた自走化への計画を作成し、各SGUホームページにて公表する。</li> <li>▪ 次回（2020年度）の中間評価において、自走化の計画に対する進捗についても評価項目とする。</li> <li>▪ (スケジュール)</li> <li>▪ 平成30年度末までに作成依頼を行い、2019年夏までに公表する。</li> <li>▪ 2019年度末までに中間評価の実施方法を本事業のプログラム委員会において定める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 各採択大学において、財政支援終了後を見据えた自走化への計画を作成し、2019年7月31日に各採択大学のホームページにて公表した。その後、SGUホームページ（日本学術振興会）にて、各採択大学の自走化計画をまとめたページに掲載した。（2019年8月26日）</li> <li>▪ 左記のスケジュールを前提に自走化の計画に対する進捗についても評価項目として定める予定。</li> <li>▪ (令和2年度概算要求での改善状況)</li> <li>▪ ロジックモデルで示した中長期アウトカムの実現に必要な経費を要求。</li> <li>▪ なお、中間評価の実施方法については、令和2年3月に開催予定のプログラム委員会において定める予定。</li> </ul>	<p><a href="https://www.jsps.go.jp/j-ssgu/h26_kekka_saitaku.html">https://www.jsps.go.jp/j-ssgu/h26_kekka_saitaku.html</a></p>